

子どもがゴツンと頭を打つたらご用心!

意外に知らない 急性硬膜外血腫の対処法

子どもが腕白なのは元気な証拠。転んでケガをするのも日常生活の一部です。でも、それが頭を強く打つたとなると笑って済ませることはできません。日常生活にひそむ危険なケガ「急性硬膜外血腫」について、脳外科医の江口貴博先生にうかがいました。

すっかり転んだだけで重症化するケースも

私が最初に勤務した「兵庫県立こども病院」では、水頭症や脊髄奇形、脳腫瘍など比較的重症の子どもたちを診ていました。今は一般病院に勤務しているので、子どもの頭部外傷（頭を打



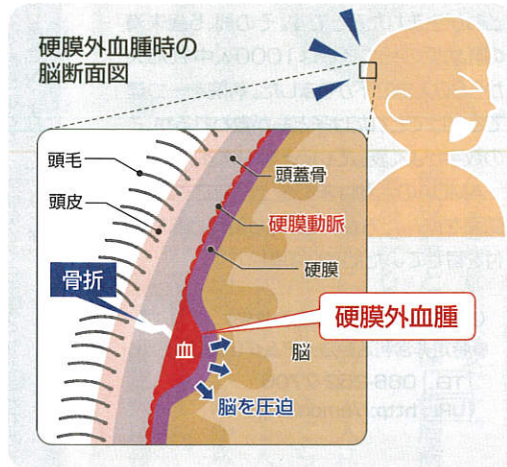
江口 貴博 先生

プロフィール

1965年徳島県生まれ。徳島大学医学部卒業。神戸大学医学部大学院修了後、兵庫県立こども病院脳神経外科部長となる。97年AMD A兵庫県支部の立ち上げにかかわったのを機に、ネパールに子ども病院を建設する活動に取り組む。2000年からフリーランスの脳外科医に。現在も徳島や奈良など8つの病院に在籍しながらAMD Aの活動を続けている。

ったときに起こる症状全般)を診ることも多いのですが、その中でもしばしば起こるのが急性硬膜外血腫です。

ちょっと専門的な話になりますが、人の頭蓋骨の下



り、脳を圧迫するようになります。それが引き金となって痙攣や意識障害、半身不随などさまざまな症状が起こります。これが急性硬膜外血腫で、特に子どもの場合、まだ硬膜が頭蓋骨にしっかりとくっついていない状態なので剥がれやすく、重症化するケースが多いです。

事故後すぐに症状が出にくいのが特徴

硬膜と脳の間にはもともと隙間があるので、血腫ができ始めてもすぐに脳を圧迫することはありません。ただ、すぐに症状が出ないために周りの人は大丈夫とつい安心しがちですが、実は急性硬膜外血腫は、事故直後は意識がしっかりして

いるのに、時間の経過とともに急激に症状が悪化することが多いのです。

判断のポイントになるのは、事故に遭ったとき意識消失をしていないか、事故後、頭痛がひどくなっていないか、吐き気がないか、眠りがちになっていないかなどです。一つでも疑わしい兆候があれば危険信号です。外傷の有無にかかわらず、すぐに専門病院にかかるようにしてください。あと、この外傷は骨折を伴うことが多いので、外傷があればその段階で脳外科専門病院にかかることをおすすめします。

